令和２年度　厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
思春期・若年成人（AYA）世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究
分担研究報告書

AYA 支援チームのモデル作成に関する研究

研究分担者　小澤美和　聖路加国際大学　聖路加国際病院　小児科　医長

研究要旨：
昨年度、開設した AYA サバイバーシップ・センターの運営会議（毎月）、事例ミーティング（毎週）を定例で運用した。運営会議には、病院運営スタッフが同席し AYA 支援チームが、医療・支援を実践するために必要なシステムの実現に向けて準備が進んだ。事例ミーティングは、誰も参加できる形態で毎週開催することにより、多角的な視点での支援を考えることが定着し、チームメンバーにとっての学びともなった。
多職種による AYA 支援の実践をまとめた手引書をチームで共有し、AYA 世代患者の多様なニーズに気づき、院内で支援提供可能な部署間の連携を円滑にした。

A．研究目的

１病院完結型の AYA 支援体制の確立と、院内外への啓発、ネットワーク作りの実践を行う。

B．研究方法

１．AYA サバイバーシップセンターの運営

運営会議を毎月開催した。総務課、医事課、広報を含む、AYA 世代診療に携わる医師、看護師が参加した。

AYA 支援連携看護師として、がん相談支援センター、腫瘍内科、ブレストセンターの 3 部門で、それぞれ 1 人（支援コーディネーター、がん化学療法看護認定看護師、乳がん看護認定看護師）が担当を担った。

２．支援チーム間での連携の円滑化

支援チームの多職種が、それぞれ AYA 世代がん患者支援で行っている実際を共有する手引書を作成した。患者の多様なニーズに気づいたメンバーが、ニーズに対応可能な院内での支援窓口を案内できることを目的とした。

３．院内外への啓発・ネットワークの構築

AYA サポートユニットメンバーを中心にすべての診療科に開かれた、定例 meeting を毎週 30 分開催、継続した。懸案事例の共有、連携を行った。

また、小児期発症の移行期医療カンファレンスを成人の診療科（総合診療部を中心に腫瘍内科、血液内科など）と小児科の参加により立ち上げ、1 回/3 ヶ月開催した。

院内がん生殖カンファレンスは、小児期発症 1 回/3 カ月、成人発症 1 回/月、定例開催を継続した。

がん生殖チームを持たないがん治療専門病院 2 施設とのがん生殖合同カンファレンスを、3 カ月に 1 回の定期開催を継続した。

市民公開講座開催により、患者、他施設へ当院の AYA サバイバーシップ・センターの利用を呼び掛けた。

C．研究結果

１．AYA サバイバーシップセンターの運営

１）啓発

AYA 世代がん患者を捕捉し、昨年配置された AYA 連携担当看護師へ導くための名刺サイズのカードと 3 つ折りリーフレットを作成し、院内スタッフ・患者へ啓発した。

２．　支援チーム間での連携の円滑化

AYA 支援手引書：

AYA 世代がん患者の支援に関わる各部署毎に、支援のポイントを記載した。

担当医（腫瘍内科医）、医療ソーシャル・ワーカー、薬剤師、栄養士、心理士（本人支援、パートナーや子どもの支援）、理学療法士、リエゾン Ns（アピアランス）、医事課。

３．院内外への啓発・ネットワークの構築

１）院内啓発

院内スタッフ全員に開かれた Oncology Grand Conference で、AYA 世代肺がん患者の心理・社会的問題を検討した。

2020 年度の定例事例ミーティングは、32 回開催。AYA がん受診者数年間 175 件中、のべ 50 件が取り上げられた。

AYA 世代がん患者からの相談実績はのべ 180 件。

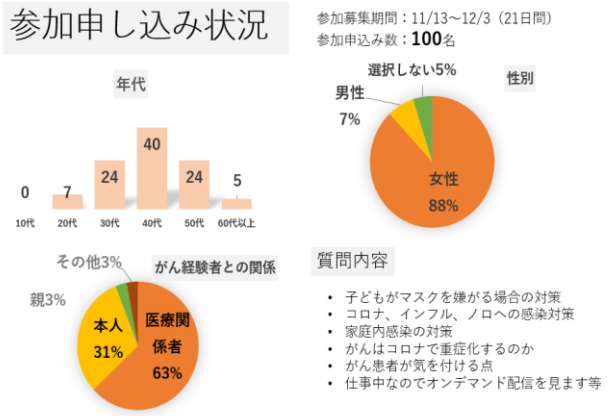
心理支援　104 件
がん生殖医療　50 件
新規就労　5 件
就労継続・再就職　114 件
経済的問題　48 件
パートナーのこと　1 件
子どものこと　23 件
親のこと　12 件
栄養・食事　32 件
運動のこと　18 件
アピアランスのこと　86 件
その他　52 件

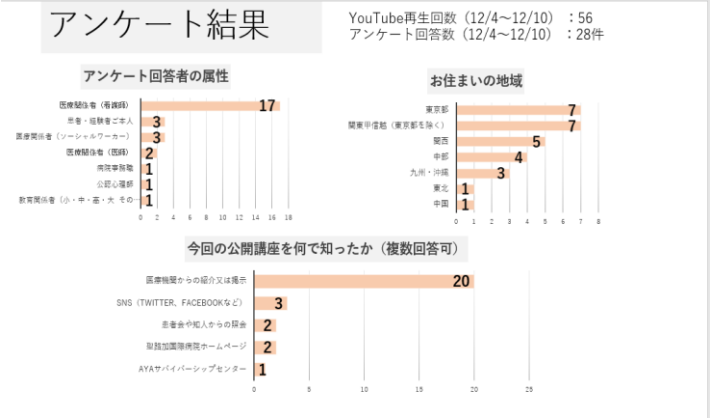
院内がん生殖カンファレンスは、年間で 12 回開催した。

また、小児期発症の成人医療への移行期医療カンファレンス（AYA トラカンファ）を成人の診療科と小児科の参加により開始した。1 回/3 カ月で、毎回 3 件前後が取り上げられ、昨年に加えて、院外からの依頼ケースが増え始めた。

２）院外啓発

コロナ禍を鑑み、2020 年 12 月 3 日　市民公開 Web 講座を開催し、患者・家族、他機関へ、AYA 世代がん患者支援となる情報提供と、サバイバーシップセンターの活用を呼び掛けた。





３．院内外への啓発・ネットワークの構築

がん生殖カンファレンスを、生殖医療チームを持たない近隣の 2 施設と定例の合同開催としたことで、がん生殖の情報発信と診療連携ネットワークの充実に貢献できた。

院外からの患者相談

心理支援　13 件
がん生殖医療　35 件
新規就労　0 件
就労継続・再就職　15 件
経済的問題　48 件
パートナーのこと　0 件
子どものこと　3 件
親のこと　2 件
栄養・食事　7 件
運動のこと　2 件
アピアランスのこと　15 件
その他　13 件

D．考察

AYA支援チームの構築は、各施設でAYA世代がん患者の診療を多く担当している診療科の医師・看護師と相談支援センターの相談員が核になり、関連医療にかかわる診療科やニーズ支援を行う部署が複数構成員となることが望ましいと考える。

さまざまな診療科に散らばっているAYA世代がん患者の存在に気づくこと、そして彼らのニーズを

拾う窓口を院内に周知することで、相談件数は確実に増えてきた。

さらに、施設間カンファレンス、公開講座の開催により当院のAYA世代の相談窓口の利用を呼び掛けることで、院外からの相談件数も増えつつある。特筆すべきは、小児がん経験者であるAYA世代の医療・相談の継続先としての他施設からの依頼をAYAサバイバーシップセンター相談員が窓口として受ける連携も構築しつつある。

これらのカンファレンスの開催は、当院のAYAサポートユニットの学びにも貢献した、と言える。

E．結論

AYAサバイバーシップセンターの運営として、AYA連携担当看護師を3部門に配置し、院内・外にさまざまな形で発信することにより、AYA世代がん患者の相談件数は、増加した。

施設間カンファレンス、院内カンファレンスは、知識の共有だけでなく、支援連携の啓発にもつながった。

G．研究発表

1. 論文発表

１）　樋口明子、小澤美和、坂水　愛、檜垣　希望、恩田　聡美、片山　朝子、堀部敬三.AYA世代の小児がん患者・サバイバーのニーズと課題.J.AYA Oncl Allia 2021 1(1)

２）　Akemi Kataoka, Takayuki Ueno, Hideko Yamauchi, Natsue Uehiro, Chikako Takahata, Yoko Takahashi, Eri Nakashima, Akiko Ogiya, Takehiko Sakai, Dai Kitagawa, Hidetomo Morizono, Yumi Miyagi, Takuji Iwase Atsuko Kitano, Yumi Fukatsu, Nobuko Tamura, Junko Kawano, Hiroko Bando, Kentaro Tamaki, Kyoko Shiota, Miwa Ozawa, Mariko, Kobayashi, Shinji Ohno. Physician's knowledge, attitudes and practice pattern for breast cancer diagnosed during pregnancy: a survey among breast care specialists in Japan.Breat Ca 2020 Sep(5):796-802

2. 学会発表

１）久野美智子、寺田式穂、亀口憲治、小澤美和

AYA 世代小児がん経験者およびその同胞支援　―小児がん経験者とその同胞に対する「家族イメージ」の比較研究 2―　第 39 回　日本心理臨床学会 2020.11.20-26 Web

２）寺田式穂、久野美智子、亀口憲治、小澤美和

AYA 世代小児がん経験者およびその同胞支援　―小児がん経験者とその同胞に対する「家族イメージ」の比較研究１―　第 39 回　日本心理臨床学会 2020.11.20-26 Web

３）小澤美和. 長期療養中の高校生がん患者が継続的な教育支援を受けるためにできることは何か第 62 回日本血液がん学会学術集会

４）小澤美和. AYA 世代ががんと共に生きる　―医療と社会ができること―　第 15 回東京都医学検査学会　2021.3.15-4.18

H．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし